

公益財団法人 勇美記念財団 平成 22 年度 市民講座アンケート集計報告

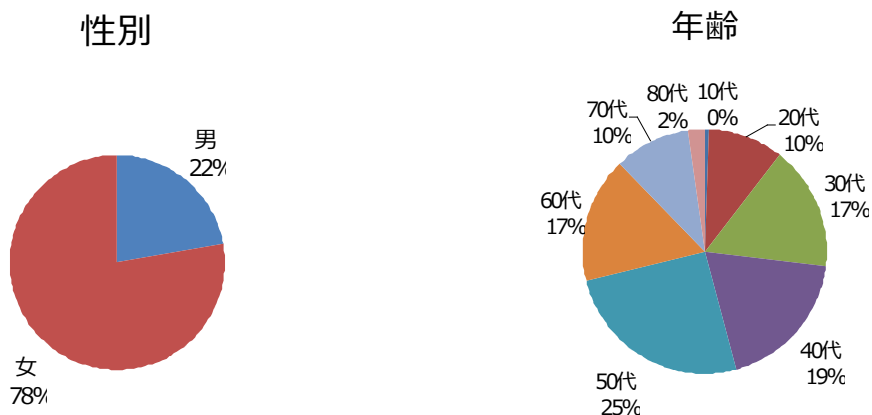
勇美記念財団では、一般市民への在宅医療の啓蒙・普及を図るため、「市民講座」への助成を行っています。平成 22 年度、助成対象となった講座数は 36。昨年度の 22 から大幅に増加し、市民への啓蒙活動はますます活発化しています。

本年度は震災の影響により開催が延期されるなど、さまざまな困難がある中で、関係者の尽力により、計画されていた市民講座をすべて無事に終了することができました。これまで同様、本年度も参加者へのアンケート調査を実施いたしましたので、集計結果をご報告いたします。

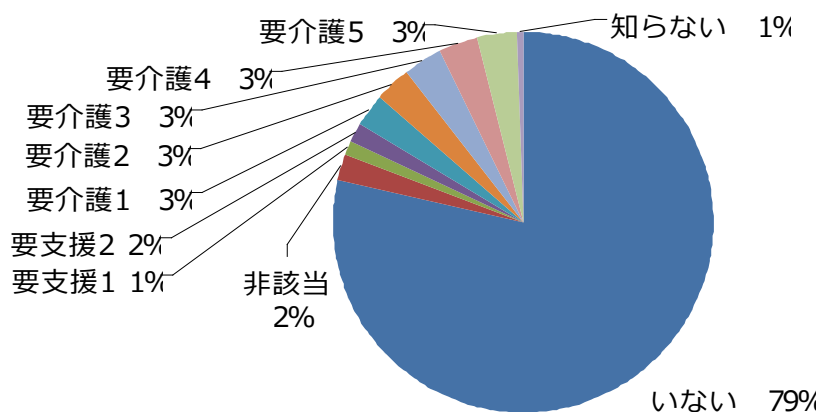
1. 参加者の概要

参加者の男女比は、これまでと同様、女性が4分の3以上を占めました。年齢層は、特に多かったのが50代で、その前後の年代の方々を中心に、10代～80代まで非常に幅広い年齢層の方にご参加いただいています。

また、介護している対象者の有無については、「いない」が約8割を占める結果となりました。



Q 介護をしている対象者はいますか？



2. 介護の実態

続いて、「介護している方はいますか」の問いに「いる」と回答した方へ、その実態について具体的な質問を行っています。

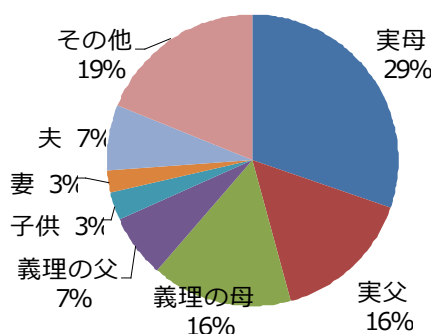
結果は、実母、実父、義理の母を介護している方の割合が高く、長期での介護を経験している方も少なくないなど、昨年までとほぼ同様の傾向が示されました。

①対象者との関係、介護度、療養場所など

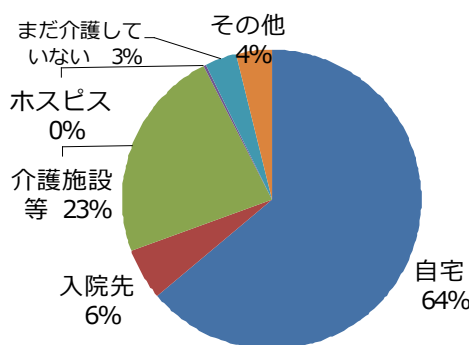
“誰を介護しているのか”の問いに対して、最も多かったのは「実母」で 29%。次いで「実父」「義理の母」と続いています。

介護している場所は、最も多いのが「自宅」で、昨年よりも微増の 64%。次に「介護施設」23%となりました。介護の期間は「5年以上」が 36%で最も多く、「3年」25%、「1年」22%と続いています。

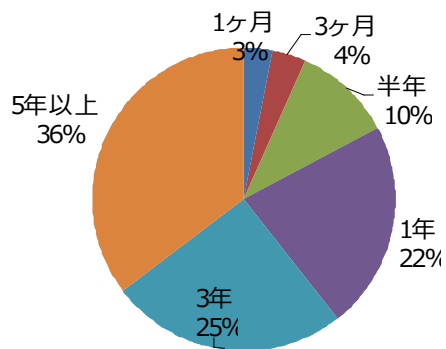
Q 対象者との関係は？



Q 介護している場所は？



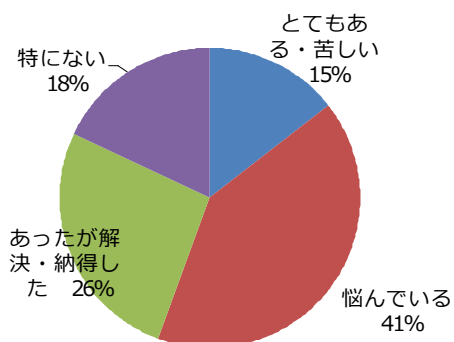
Q 介護の期間は？



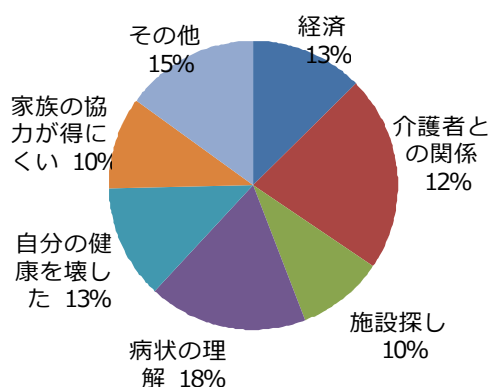
②介護における困難、および介護に不可欠な事項について

実際に介護をしていて困難を感じる事が「とてもある・苦しい」という方、あるいは「悩んでいる」という方は、合わせて全体の約 6 割。その内容については、複数回答をする方も多く、介護をする方がさまざまな困難を複合的に抱えている実態も明らかとなりました。中でも、「介護者との関係」および「病状の理解」に悩むという声が、多く寄せられています。

Q 介護していて感ずる困難は？



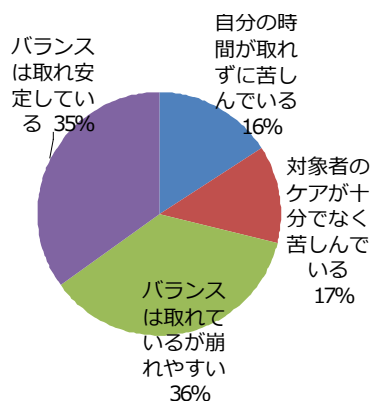
Q 困難の内容は？



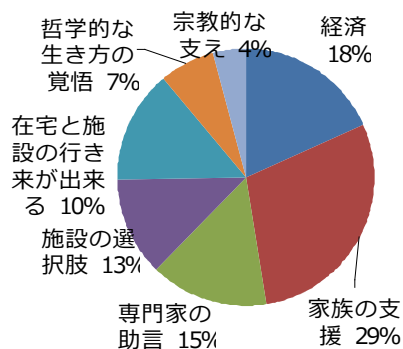
対象者のケアと自らの生活とのバランスについては、「バランスは取れているが崩れやすい」が 36%で最多。昨年度と比べると「バランスが取れ安定している」という回答も、35%とやや増えています。

続いて、自分の生活と介護をいかに両立させるか。必要なのは何よりも「家族の支援」という回答が最も多く寄せられました。療養者本人がどこで最期を迎えることを希望しているかについては、半数以上が自宅と回答しています。

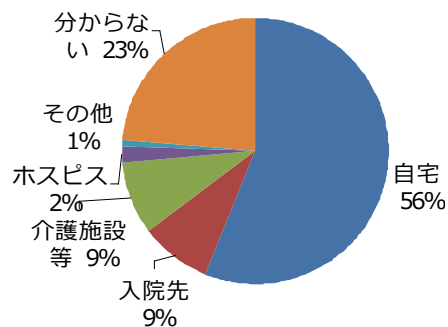
Q 対象者のケアとあなた自身の生活のバランスは取れていますか？



Q 介護と自分の生活の両立を助けるものは何ですか？



Q 対象者が最期を迎えるのに希望している場所はどこですか？



3. 自らが介護される場合について

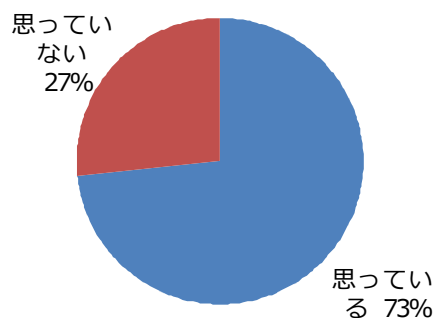
では反対に、自分自身が介護される側になった場合について、どのように考えているのでしょうか。

まず、自らが要介護の状態になることに対して不安はあるか、という問いには、7割強が「不安に思っている」と回答。また、療養場所については、自宅での最期を望むとの回答が半数強を占めました。そして多くの方が、介護は自らの配偶者もしくは子供にしてもらいたいと答えています。

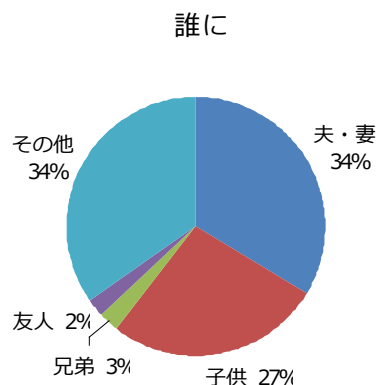
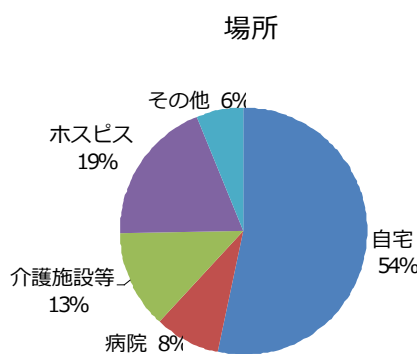
さらに、その場合の費用について「心配」あるいは「わからない」という回答が9割を越え、大多数の人が少なからず経済的不安を抱いていることが見えてきました。

さらに、今年度のアンケートから新たに加わった「リビングウィル」についての質問では、「書いていない」が74%と最多。「知らない」22%も含めると、まだまだ浸透していない実態が浮かび上がってきました。

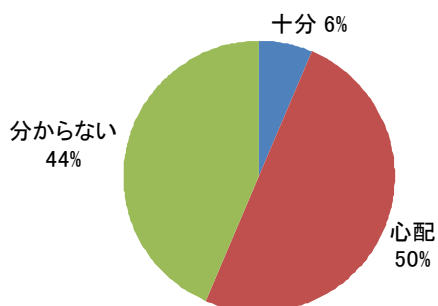
Q 自分が要介護になることを予測し、不安に思っていますか？



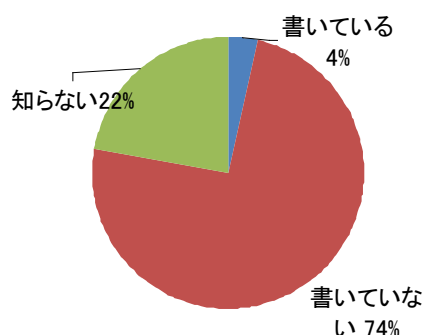
Q 要介護状態になった時、最期を迎えるのに希望する場所は？ 誰に介護してもらいたいですか？



Q その場合の費用は？



Q リビングウィルを書いていますか？



4. 今、一番必要としていること(自由記載)

市民講座への参加者は、介護経験のない方が多くを占めています。もし、身近な人に介護が必要になったら、あるいは自分自身が介護される側になったら——市民講座は、そんな時のことを改めて考えてみる“きっかけづくり”の場とも言えるでしょう。

“病気”や“障害”を自らの問題としてとらえた時、人は何を思うのか。アンケートの最後の質問、「今、あなたが一番必要としていること(自由記載)」では、参加者のさまざまな想いが浮かび上がってきました。以下、主立った回答をみていきましょう。

○要介護状態にならないために、まずは“健康”が第一

病気で苦しみたくない、人に迷惑をかけたくないと思うのは自然なこと。「介護を必要とする自分の姿」というのは、なかなかイメージしにくいものです。そうならないために、何よりも健康でありたい、尊厳ある人生を送りたいという声は、例年同様に多く寄せられています。

〈健康や体力、病気にならないこと〉

- ・ 身の回りのことができる程度の体力を持ちたい(60代女性)
- ・ 認知症にならないこと(40代女性)
- ・ 長生きできて、苦しまずに死ねること(60代男性)

〈尊厳ある人生〉

- ・ 自分の人生、自分で決めたい(60代女性)
- ・ 自分の意志が尊重され、最期を迎えられること(60代女性)

○さまざまな課題への気づきと、不安の払拭

介護が必要になった時のことを想像すると、さまざまな不安が浮かび上がってきます。情報の不足、経済的な不安、病気や障害を抱えながらも生きていくための社会の制度的な基盤など、アンケートで指摘された内容は多岐にわたっています。

〈正しい知識、情報〉

- ・ 人はどのような経過を辿って死ぬのか、ということを知りたい(70代男性)
- ・ サービスの全体像を知りたい(50代男性)
- ・ 実際に在宅療養をしている方、介護をしている方の話を聞きたい。利用しているサービスをどのように感じているかも聞いてみたい(40代女性)

〈経済的な問題〉

- ・ 自分の老後、必要なサービスを十分に利用できるだけの蓄え(30代女性)
- ・ 最期を迎えるまでにどのくらいの金額が必要か。今の世の中では全く先が見えないことが不安で、先が見える状況づくりが何よりの優先課題(50代女性)

〈社会のシステム、制度の充実〉

- ・ 一人でも在宅で暮らせるように、24 時間の見守りのシステムを早く充実させて欲しいです。箱物よりもソフトを(50 代女性)
- ・ 私たちが要介護状態になる頃には、国の財源がなくなり、年金や介護保険のサービスを受けられないのではないか。そのような不安感を軽減できる施策が、一番必要(40 代女性)

○介護の現実を伝える、経験者の声

一方、介護経験のある参加者からは、理解者の存在がいかに重要か、尊厳を守ることがいかに大切か、実体験をふまえた当事者ならではの示唆に富んだコメントが寄せられています。

〈理解者の存在の大切さ〉

- ・ 仕事と介護の両立に苦しみました。女が介護より仕事を優先させることには理解が少なく、愚痴も言えませんでした。理解者が欲しかったです(50 代女性)

〈在宅介護の難しさ〉

- ・ 在宅介護は基本的には無理だと思う。自宅か施設かの選択肢で、誰もが自宅を選択するというデキレースに乗りすぎていると思う(50 代男性)

〈尊厳の問題〉

- ・ 父が認知症です。病気の経過を提示されることもなく、診断されたその時から、父の人生の決定権が奪われてしまっている気がします。父の尊厳は守られるのか。本人の意志は、見過ごされていくのでしょうか(40 代女性)
- ・ 日本は長寿が必ずしも幸せとは思えない社会です。昔なら自然死の患者も、医学が進んで延命できる現代ですが、介護や経済的なことを考えると、私自身は食べられなくなった時点でエンドにしたいと思います(70 代女性)

○市民の意識変革と、支え合う関係の大切さ

社会の仕組み、制度的な支えは重要ではありますが、それだけでは十分ではなく、「最後は人と人とのつながりが重要」という意見が、これまで以上に多く聞かれるようになりました。さらに、市民が単なる“サービスの受け手”に留まってしまわずに、“支え合える地域づくり”に自ら積極的にコミットしていきたいという、前向きなコメントも多く寄せられました。

〈意識を変えること〉

- ・ 高齢者本人が介護サービスを利用することを“世間体が悪い”と思わないこと(50 代女性)
- ・ 地域の意識向上のための場を増やしてほしい(40 代男性)

〈支え合いの関係、絆の大切さ〉

- ・ いかに満足できる死を迎えるか、ということ突き詰めて考えていった時、結局のところ、一番必要なことは、地域や家族の絆なのだと感じています(60 代女性)
- ・ ただ言われるままではなく、気持ち(本音)を伝える“勇気”が必要だと思う(50 代女性)
- ・ 死生観についての世代を超えた対話(30 代女性)
- ・ 地域でつながれるよう、自分にできることを知りた。(40 代男性)

【助成対象となった市民講座】

《前期》

- 第2回市民公開講座『在宅と井戸』
(平成23年3月12日・認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット主催)
- 第12回湘南在宅ケアセミナー『あなたは食べられなくなったら胃ろうを造りますか?』
(平成23年1月16日・全国訪問ボランティアナースの回キャンナス主催)
- 市民公開講座『病院と在宅の架け橋』
(平成22年12月18日・金沢赤十字病院主催)
- 第24回おなか健康シリーズ『在宅医療～住み慣れた自宅で最期まで過ごすということ～』
(平成22年11月14日・医療法人社団おなか会主催)
- 市民公開シンポジウム『家で最期まで大切な人と過ごすために』
(平成23年3月27日・山口県訪問看護ステーション協議会主催)

《後期》

- 市民講座『住み慣れた場所で最期まで自分らしくすごせるように』
(平成23年6月11日・かとう内科並木通り診療所主催)
- 第15回在宅ケアネットワーク栃木『地域でともに生きるために～キュアからケアへ～』
(平成23年2月11日・在宅ケアネットワーク栃木主催)
- 第12回在宅ケア勉強会『在宅患者の介護者を支えるために…』
(平成23年3月12日・社団法人姫路市医師会主催)
- 在宅医療講演会『在宅歯科診療の重要性と普及・啓発について』
(平成23年5月21日・特定非営利活動法人高槻ブロードキャスト主催)
- みえ生と死を考える市民の会 記念講演会『妻を看取る日』
(平成23年6月18日・みえ生と死を考える市民の会主催)
- 市民公開講座『NICU 新生児集中治療室 子どもにかかわるすべての人へ』
(平成23年6月11日・ボランティアグループ premature delivery ぷーさん主催)
- NPO法人設立記念講演会『このまちで最期まで生きるということ』
(平成23年3月12日・NPO法人すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会あこも主催)
- 第9回市民公開講座『後悔しない最期の時の迎え方』
(平成23年6月5日・特定非営利活動法人全国在宅医療推進協会主催)
- 市民向け在宅医療推進フォーラム『住み慣れた「我が家」で暮らし続けるために』
(平成23年5月7日・奈良県訪問看護ステーション協議会主催)
- 市民講座・リハビリテーションケア『在宅医療における認知症』
(平成23年4月29日・ほほえみネットワーク主催)

- 市民講座『医療行為の理解・知識・現実・課題を学ぼう』
(平成 23 年 3 月 27 日・NP0 法人東京都介護福祉士会主催)
- 市民公開講座『住み慣れた我が家で人生を全う出来る地域をめざして』
(平成 23 年 11 月 19 日・日本ホスピス・在宅ケア研究会主催)
- 第 3 回市民講座 & フォーラム
『在宅ケアについて考えよう～住み慣れた場所で暮らし続けるために～』
(平成 23 年 3 月 6 日・在宅ケアについて考える会主催)
- 『老いてこそ』
(平成 23 年 2 月 18 日・医療法人社団つくしんぼ会主催)
- 第 1 回市民講座 本音で語る広場:福島
『今だから言える、介護経験から医療現場に望むこと』
(平成 23 年 10 月 9 日・福島中央市民医療生活協同組合主催)
- 市民公開セミナー『病院では教えてくれない「がん生活のコツ」』
(平成 23 年 5 月 14 日・一般社団法人健康支援ディアス主催)
- 第 2 回市民講座 本音で語る広場:東京
『今だから言える、介護経験から医療現場に望むこと』
(平成 23 年 4 月 24 日・看護コンサルタント/在宅看護研究センター主催)
- 第 1 回市民講座 本音で語る広場:大阪
『今だから言える、介護経験から医療現場に望むこと』
(平成 23 年 6 月 4 日・在宅看護研究センターおおさか主催)
- 第 5 回市民公開シンポジウム
『メディカルタウンの住まい方 ～最期の日までの家とケアと人と暮らし～』
(平成 23 年 2 月 13 日・30 年後の医療の姿を考える会、
NP0 法人白十字在宅ボランティアの会、高齢社会におけるソフト研究会共催)
- まちづくり講座
『認知症になっても普通に生きられるまちづくり～認知症の理解を通じて(全4回)』
(平成 23 年 3 月 12 日など・社会福祉法人サン主催)
- 市民公開講座 in 広島文教女子大学『生命の看取りに関わる』
(平成 23 年 6 月 19 日・広島文教女子大学主催)
- 第 1 回市民講座 本音で語る広場:茨城
『今だから言える 介護体験から医療現場に望むこと』
(平成 23 年 9 月 10 日・有限会社看護の宅配主催)
- 第 2 回町田在宅ホスピスシンポジウム『最期まであなたらしく、家で生きるために』
(平成 23 年 3 月 6 日・特定非営利活動法人風の風主催)
- 第 13 回日本在宅医学会大会・市民公開講座『画家 三橋節子から生きることを学ぶ』
(平成 23 年 3 月 12 日・第 13 回日本在宅医学会大会事務局主催)

- シンポジウム『“いのち”に寄り添う ～ひと、たましい、医療～』
(平成 23 年 6 月 5 日・NPO 法人日本ホリスティック医学協会中部支部主催)
- 日本家族看護学会第 18 回学術集会 特別放談『在宅での看取りを体験した著名人の提言』
(平成 23 年 6 月 26 日・日本家族看護学会第 18 回学術集会主催)
- 市民講座『医療と介護の連携が推進する在宅での看取り』
(平成 23 年 2 月 2 日・セントジョンアンビュランスジャパン協会東北本部主催)
- 第 7 回多摩胃ろうネットワーク市民公開講座『胃ろうをもっと知ろう』
(平成 23 年 2 月 26 日・NPO 法人多摩胃ろうネットワーク主催)
- 第 1 回市民講座 本音で語る広場:熊本
『今だから言える 介護体験から医療現場に望むこと』
(平成 23 年 2 月 5 日・座異端法人杏仁会江南病院主催)
- 市民公開講座 映画『風のかたち～小児がんの仲間たちの 10 年～』上映 & 討論会
(平成 23 年 7 月 9 日・病気・障害を持つ子どもを考える会主催)
- 『在宅で家族の介護をしながら働く看護職のための支援講座』(全6回)
(平成 23 年 1 月 29 日～・新潟大学医学部主催)